

産経新聞

学士院賞 十倉氏ら9人 特殊な新材料で法則発見

日本学士院は12日、優れた業績を挙げた研究者に贈る日本学士院賞に、絶縁体になったり金属になったりする特殊な新材料を研究した十倉好紀東京大教授(59)や、ドイツの宗教改革者マルティン・ルター研究の新たな基礎を築いた松浦純東京大教授(63)ら9人を決め

た。十倉、松浦両氏には恩賜賞も贈る。十倉氏は、物質中に電子がぎっしり詰まった特殊な「強相関電子材料」を研究し、この材料が高温超電導体となる法則を発見した。松浦氏は、ルターが初期に書物に書き込んだ文章を研究したドイツ語の著作が評価された。

ハワイのすばる望遠鏡で129億年前の銀河を発見した家正則・国立天文台教授(63)や、光ファイバーの

信号を中継する光増幅器を開発した中沢正隆・東北大学教授(60)、老化に関わるクロト・遺伝子を発見した先端医療センター(神戸市)の鍋島陽一センター長(66)らも選ばれた。授賞式は6月、東京・上野の日本学士院で開かれ、1件につき賞金100万円が贈られる。

日本学士院賞の受賞者と授賞理由は次の通り。(敬称略)

【日本学士院賞・恩賜賞】

松浦純(まつうら・じゅん) 東京大教授、ドイツ文学、63歳。ルター初期の自筆資料を研究。愛知県春日井市出身、東京都調布市在住。



十倉好紀(とくら・よしのり) 東京大教授、物性物理学、59歳。「強相関電子材料」の物性を研究。兵庫県西脇市出身、東京都練馬区在住。



【日本学士院賞】

興膳宏(こうぜん・ひろし) 東方学会理事長、中国文学、76歳。中国の文学理論史を系統的に研究。福岡市出身、京都府宇治市在住。



巽和行(たつみ・かずゆき) 名古屋大教授、無機化学、64歳。金属酵素の構造や機能の研究で成果。奈良県葛城市出身、愛知県春日井市在住。



家正則(いえ・まさのり) 国立天文台教授、天文学、63歳。すばる望遠鏡で129億年前の銀河を発見。札幌市出身、東京都杉並区在住。



中沢正隆(なかざわ・まさたか) 東北大学教授、電子工学、60歳。光増幅器を実現し、光通信の大容量化に貢献。山梨県中央市出身、仙台市在住。



佐藤英明(さとう・えいめい) 東北大学教授、家畜繁殖学、64歳。哺乳動物の卵子形成の仕組みを研究。北海道湧別町出身、仙台市在住。



鍋島陽一(なべしま・よういち) 先端医療センター長、分子生物学、66歳。老化に関わる遺伝子を発見。新潟県上越市出身、京都市中京区在住。



門脇孝(かどわき・たかし) 東京大教授、内科学、60歳。糖尿病を抑えるホルモン「アディポネクチン」の作用を発見。青森県八戸市出身、東京都台東区在住。

